I Ru

音の写真展

-写真と音がつなぐラトビアと日本-

2024年11月5日（火）～9日（土）
平日　11:00am–7:00pm
(ただし、初日は4:00pmオープン)
土曜　9:00am–1:00pm

会場：東遊園地 URBAN PICNIC ラウンジ
神戸市中央区加納町6-4-1

写真：ラウリス・ヴィークスネ
モデル・合唱：ユース合唱団「BALSIS」（ラトビア）
SCATOLA DI VOCE（日本）

入場無料

RĪGA　KOBE CITY of DESIGN　MISSION Latvia　scatola di voce　BALSIS!　Mūzikas un mākslas attīstības fonds BALSIS www.balsis.lv

I Ru

音の写真展

-写真と音がつなぐラトビアと日本-

写真×音楽×テクノロジー×文化

この「音の写真展」は、ラトビア人写真家Lauris Vīksneが撮影した合唱団員の白黒ポートレート写真と音楽を融合させたものです。ラトビア国民は「歌う民」とも呼ばれ、様々な大国の支配下に置かれる中で自分たちの文化を歌い継ぎ、守ってきました。今回は、「合唱」を切り口とし、テクノロジーを用いたインスタレーションを通じて、ラトビアと日本の文化を紹介します。

＊「IRu」を完全に体験するには、QRコードリーダー付のデバイスが必要です。スマートフォンなどをご持参ください。

写真：ラトビアの合唱団BALSISと日本の合唱団SCATOLA DI VOCEの写真には、ラトビアの「伝統的な文様（シンボル）」や日本の「漢字」が影のように映し出されています。これらの文様や漢字は、詩を象徴するものです。

両国には、詩の文化があります。17音節から成る日本の俳句はその瞬間を切り取り、自然と人間の調和を表します。ラトビアの詩は特有のリズムで、哲学的文脈や特有の解釈が強調されています。これらの詩は、それ自体が意味のあるシンボルとなり、視覚表現と音の表現の、言わば間にあるものと言えます。

音楽：2つの歌 - ラトビアの「Pūt, vējiņi（風よ、吹け）」、日本の「ふるさと」。2つの合唱団の合唱が一つの音に溶け合いながら、ラトビア語と日本語、それぞれの声が会場に響き渡ります。